

千葉市文化センター アートホール

2015年 1月10日(土)

開場 13:40 / 開映 14:00

※山田火砂子監督舞台挨拶を予定しております。

会場住所:千葉市中央区中央 2-5-1

アクセス:JR総武線『千葉』駅徒歩 10 分

当日券 1,800 円

※開映後及び満員の際はいかなる理由においても、ご入場をお断りする場合がございます。

※都合によりスケジュールに変更が生じる場合もございます。ご来場の際には最新情報(<http://www.gendaiapro.com>)をお確かめください。

あらすじ

山本慈昭は長野県下伊那郡会地村にある長岳寺の住職であり、国民学校(現在の小学校)の先生でもあった。昭和二十年五月一日、敗戦間近に三つの村の村長に説得され、一年だけと言う約束で満州へ渡る。

八月九日に、日ソ不可侵条約を破ってソ連軍が一方的に攻めてくる。八月十五日の敗戦もわからずに逃げ廻るが、女子供を抱えてシベリア国境近くの北哈嗎の町より逃げても、なかなか先に進まない。列車もなく、橋は関東軍が逃げる時に壊して行き、平原を歩くとロシア兵に捕まるので山の中を歩き、食料もなく死の旅であった。或る日、慈昭達一行はロシア兵に捕まり勃利の街の収容所に入れられ、16歳以上の男性はシベリアに連れて行かれる。極寒の中、労働をさせられた慈昭は、奇跡的に一年半後に日本に帰国する事が出来た。長岳寺に辿り着くと、妻と子供達は亡くなったと知らされる。

世の中が民主主義となり、大きく変わりつつある頃、慈昭は開拓団の仲間達の辿った運命を『阿智村・死没者名簿』としてまとめる。同じ頃、天台宗・半田大僧正に会い長野県日中友好協会会長を引き受ける事を聞き、平岡ダム建設のため強制連行された中国人の事を知り、遺骨を本国へ返す運動に力をそそぐ。

中国を訪れてから一年あまりがすぎた頃、慈昭のもとに一通の手紙が届く。手紙は日本人孤児からの物で、戦争で離れ離れになってしまった子供達が、両親を恋しく思い、再会したいという気持ちが詳しく書いてあった。慈昭は、満州で沢山の日本人が優しい中国人によって育てられている事を知り、孤児達の日本帰国救済運動を始める。

製作意図

満州国とは、日本が中国の東北地方に建てた傀儡国家で、一九三二年から一九四五年まで存在しました。私のこの映画のテーマは『国家が総力を挙げて作り上げた大きな嘘は、いつの時代でも見破るのは容易ではない。そして、それに従った開拓団も義勇軍も客観的には侵略者であったと言う事実は打ち消せない。国家の政策に純粋に協力しただけと言っても、この事実は一人ひとりが責任を問われる事になる。国家に尽くした日本国民は、加害者であって被害者であったのです』と言う言葉です。

日本国民は全員手をつなぎ戦争をしない、平和国家を作っていきたいとこの映画を作ります。

劇映画『望郷の鐘』前売券(1500円)絶賛発売中!

【販売窓口】

・千葉県日中友好協会 043-301-8138

・千葉市文化センター 043-224-8211

・千葉市民会館 043-224-2431

・千葉市若葉文化ホール 043-237-1911

・京葉銀行文化プラザ 043-202-1790

・千葉市男女共同参画センター 043-209-8771

・千葉市美浜文化ホール 043-270-5619

【お問い合わせ】千葉県日中友好協会〒260-0021 千葉県千葉市中央区新宿 1-5-8 中村会計ビル 3階

TEL:043-301-8138 FAX:043-238-4163 E-mail:jcfa-chiba@amail.plala.or.jp

現代ぷろだくしょん〒161-0034 東京都新宿区上落合 2-22-23 上落合ハイソ 409

TEL:03-5332-3991 FAX:03-5332-3992 E-mail:gendaiapro@gendaiapro.com